

QCサークル愛知地区 2026年幹事研修会

支部の動向と各地区の取組み状況

2026年8月26日

QCサークル東海支部 副世話人
(株)豊田自動織機 木寺紀世

1. 支部の動向

- 1) 2027年度本部方針(案)
- 2) 中期ビジョン(案)
- 3) 総合交流大会(交流の場)
- 4) 経営者フォーラム
- 5) 総合交流大会(発表の場)
- 6) チャンピオン大会

2. 各地区の取り組み状況

I) 2027年度本部方針(案) [1/4]

2026年7月31日 QCサークル本部

QCサークル誕生から60年余が経過する中、DXやAIの台頭、更にはAX (AI Transformation) への対応、少子高齢化による労働力減少、働き方の多様化、産業のソフト化・サービス化など、企業を取り巻く環境は大きく変化しています。その状況を理解したうえで、私たちは、この活動を通じて日本を元気にしていきたい、そのベース（基軸）となる考えとして、2032年（QCサークル誕生70周年）を見据えたビジョンを掲げました。

(1) 2032年ビジョンが示された

QCサークル活動（小集団改善活動）に関わるすべての仲間が
喜び、楽しく、イキイキとみんなが笑顔であり続ける

(2) 新たに「楽しく」
の文言が入った

そして、QCサークル活動（小集団改善活動）を、
企業・組織の置かれている状況・環境に適した活動にシンカさせ、
この活動が人材を育成し、企業競争力の源泉であり続ける

※すべての仲間：QCサークル活動・小集団改善活動といった呼称に限らず、改善活動を通じた人材育成などの活動を行っている、及びこれから活動に取り組むすべての企業・組織、そこで働く人々。

※喜び、楽しく、イキイキと笑顔：活動を通じて学ぶことでの喜び、達成感などを感じ、またコミュニケーションの向上など職場が活性化し、楽しく、やりがい、生きがいをもって日々の仕事に取り組んでいる。

※シンカ：その時代や置かれている状況に適応して活動を進化、新化、深化させていく。

I) 2027年度本部方針(案) [2/4]

このビジョンを実現するための取組みとして、現在、各企業・組織の QC サークル活動が置かれている状況、未導入の企業・組織の状況（下記①～⑤）に応じた施策として、2026 年度に本部幹事・本部顧問を中心とした WG を結成し、検討を進めています。

(3)本部にWGが結成され検討開始

【活動企業・組織の状況】

- ① QC サークル活動の意義・価値を理解し、活動にポジティブに取り組んで理念を実現しその効果を得られている企業・組織
- ② QC サークル活動の意義・価値を理解し、活動に取り組んではいるが、理念を実現し切れておらず、十分な効果を得られていない企業・組織
- ③ QC サークル活動に取り組んではいるが、いろいろな理由により効果が十分には得られておらず、活動の意義・価値に対してネガティブになりつつある企業・組織

【未導入の企業・組織の状況】

- ④ QC サークル活動の意義・価値に一定の理解はあるが、何らかの理由（世評、誤解、理解不足、短期的利益優先、人的・時間的制約など）により活動導入に至っていない。
- ⑤ QC サークル活動の意義・価値の情報がそもそも不足しており、検討にも至っていない。
（特に、中小規模の企業・組織、JHS 領域の企業・組織・部門に多いと思われる）

I) 2027年度本部方針(案) [3/4]

本部方針

【QC サークル活動（小集団改善活動）スローガン】

みんなで、楽しみ、喜び、成長し、もっと面白く、もっと良く！

【QC サークル活動（小集団改善活動）基本方針】

基本理念の実現（個人の成長、職場の活性化、企業・組織の発展）を目指し、

1. QC サークルのリーダー・メンバーは、活動を通じて達成感と自己成長を図るために、チームワークを発揮する！
2. リーダーは、リーダーシップを発揮するために、より高い目標に挑戦する！
3. 管理者・監督者は、QC サークル活動支援を行うために、職場マネジメントの主要事項として取り組む！
4. 推進事務局は、全社一丸となったスピード感あふれる改善活動の活性化のために、新しい施策を企画する！
5. 経営者は、経営に資する全社 TQM 推進の一環として、QC サークル活動の強化を支援する！
6. とともに活動する企業・組織／仲間を増やす！
7. QC サークル活動を通じて、SDGs への取り組み、社会的な問題・課題解決にも貢献していくことに努める！

I) 2027年度本部方針(案) [4/4]

【2027年度 QC サークル本部活動方針・重点取組み】

本部・本部事務局は、活動に関わるすべての仲間が、そして、自らも、みんなで、楽しみ、喜び、成長し、もっと面白く、もっと良くしていけるよう、日々の業務を進める。

1. 支部・地区と共にこの活動を推進していく。

- (1) 本部・全国9支部・35地区・15ブロック間の相互情報共有、連携強化
- (2) 支部・地区活動の事務工数削減・負担軽減・効率化などに向けた検討を進める。
- (3) 将来に向けたデジタルツール（情報交換システム、本部システム、ホームページなど）の再整備に向けた検討を進める。

(4)普及拡大に注力する

2. 2026年度本部幹事・本部顧問WGの各テーマに関するアウトプットの実行に注力する。

- (1) 広報、情報発信（特に、JHS、中小規模企業への働きかけ）
- (2) 新たなQCC活動のあり方の検討（時代変化、企業・組織の変化等への対応）
- (3) 会員・幹事会社の維持・増加、幹事会社の負担軽減策検討
- (4) 既存大会のあり方の検討（運営事例の取扱い、審査基準の考え方を含む）

(5)大会のあり方を見直し検討する

3. 支部・地区と連携し、「活動企業・組織の状況②、③、未導入の企業・組織の状況④」の実態把握と改善策の検討と実行

(1) 実情・生の声の収集とその対応の検討

カテゴリ②・③の企業・組織が課題を抱えるに至った背景や現場の実情・生の声を収集し、根本的な問題解決に向けた取組の検討を進める。また、問題や課題、障壁を乗り越えた企業・組織の生の声も収集し、そのノウハウ（克服プロセス等）を共有・発信する場やツールの検討を進める。

(2) QCサークルトップガンチーム（仮称）の検討・編成と実行

カテゴリ②、③、④の企業・組織に対して、OB幹事の方々等に協力をいただき、伴走型で改善していく体制を整え、実行に移していく。

(3) QCC自主研修会（仮称）の検討

課題を抱える企業・組織が議論をできる場として、「QCC自主研修会（仮称）」を企画・検討する。

4. 『QCサークル』誌の活用度・利便性の向上を進める。

- (1) 「雑誌」機能にとどまらず、より役立つ情報発信、より使い勝手のよい情報ツールとすべく、デジタルを含めた展開を検討し、順次実施していく。
- (2) 仲間を増やすためのツールとして積極的に活用していく。

(6)QCサークル誌の活用を強化する

地区・支部の皆様のご協力が不可欠。本部・支部・地区の役割を明確にしながら、これまで以上に本部・支部・地区が連携を強化し、共に取り組んでいきたい、とのこと

2) 中期ビジョン(案) [1/14]

‘27～’29 支部中期ビジョンに対する改めての議論

(1) ビジョンの課題の洗い出し

- ◇ 支部中期ビジョン⇒地区中期ビジョン・・・カスケード方式の方針展開が実際に機能しているのか？
- ◇ 全方位網羅で多くの施策を打ち出しているが、本当に実現できるのか？
- ◇ 支部中期ビジョンを実現させるための具体的な施策や体制の議論ができていたか？
- ◇ 支部中期ビジョンを実現させるための支部/地区の役割責任は明確になっていたか？
- ◇ 従来の中期ビジョンは具体的な施策まで言及しているが、もっと骨太の方針で良いのではないか（大きな方向性を指し示す） 等々

2) 中期ビジョン(案) [2/14]

‘27～’29 支部中期ビジョンのあり方

(2)あり方まで検討

- ◇ 支部通期ビジョンは骨太方針とし、3年後の「あるべき姿(到達目標)」を指し示すものにする
- ◇ 3年後の「あるべき姿」の実現に向けた具体的な施策は年度の支部方針・活動計画で受ける
- ◇ 「行事企画」「普及拡大」「幹事・幹事会社」の3本柱は継続し、最優先として「幹事・幹事会社の負荷低減」に優先的に取り組む（初年度）
- ◇ 「幹事・幹事会社の負荷低減」「普及拡大」において、各地区の本音の困り事をしっかりと把握し、本質的な対策・改善を推進する
(特に2027年度は実情把握へのご協力をお願いします)

2) 中期ビジョン(案) [3/14]

‘27～’29 支部中期ビジョン (案)

QCサークル東海支部中期ビジョン(2027～2029年度)

【スローガン】 多様化、環境変化に適応した小集団改善活動で、企業の基盤である人財育成・職場活性化に繋がる取組みを東海支部内から発信しよう！

【基本方針】 ・多様な業種・職種・規模の仲間が集い、学び合い、成長できる小集団改善活動の新しい形を追求する
・活動基盤を支えてくれる仲間（幹事・幹事会社）に感謝し、共に成長し結束力を高め、幹事の維持（拡大）を図る

検討中

活動の柱	ビジョン（3年後の目指す姿）
1. 多様で変化するニーズに応える「質」重視の行事企画・実践	業種・活動成熟度の違いを超えて、それぞれの参加者が学びと成長を実感できる行事が定着し、多様な組織から支持される東海支部となる。
2. 従来の枠に拘らない多様な組織の発掘と創出によるファン拡大	強みである製造業に加えJHS・医療・福祉・教育など多様な業種との接点が広がり、小集団改善活動に共感する新たな仲間とファンが継続的に生まれる組織となる。
3. 幹事・幹事会社にとって魅力ある組織への変革	幹事と幹事会社が活動を通じて成長と価値を実感し、誇りを持って参画し続けられる持続可能な組織となる。

2) 中期ビジョン(案) [4/14]

(3)ビジョンのしくみ見直し:考え方資料

「使われない計画」からの脱却。 東海支部 3か年計画の 抜本的再設計

過去の踏襲を捨て、
持続可能な
「しくみ」を創る



2) 中期ビジョン(案) [5/14]

現状：計画は形骸化し、活動の糧になっていない



地区は支部の計画を見ていない：計画がなくても日々の活動は進んでしまう。

幹事の疲弊：善意と属人的な努力(会議、事務局、行事準備)に依存しきっている。

2) 中期ビジョン(案) [6/14]

「行事を開催する組織」から「変革を支援する組織」へ

	Before	After
組織の目的	単なる行事の開催と動員	人づくり・企業変革の支援
価値の定義	参加者数・開催回数	参加者の行動変容・悩み共有・学び合い
幹事の負担と成長	単純作業による疲弊・自己犠牲	標準化/外注化による負担軽減と、人脈形成・ノウハウ獲得
評価指標 / KPI	定量指標のみ	成長実感・職場活性化などの「定性的成果」



2) 中期ビジョン(案) [7/14]

3か年の重点リソース配分：基盤整備から普及拡大へ



2) 中期ビジョン(案) [8/14]

地区の悩みに寄り添う具体化（東海支部のケース）

支部テーマを、4地区それぞれの悩み・困りごとに落とし込み、支部連携で進める。



抽象的な「依頼」ではなく、地区ごとの具体的な「困りごと」に対する支援へ。

2) 中期ビジョン(案) [9/14]

現場のしくみ化：四半期ごとの情報共有サイクル

地区と支部が一体となるための定期的なリズムを構築する。



一体化

地区と支部がフラットなパートナーとして一体化する。

四半期サイクル

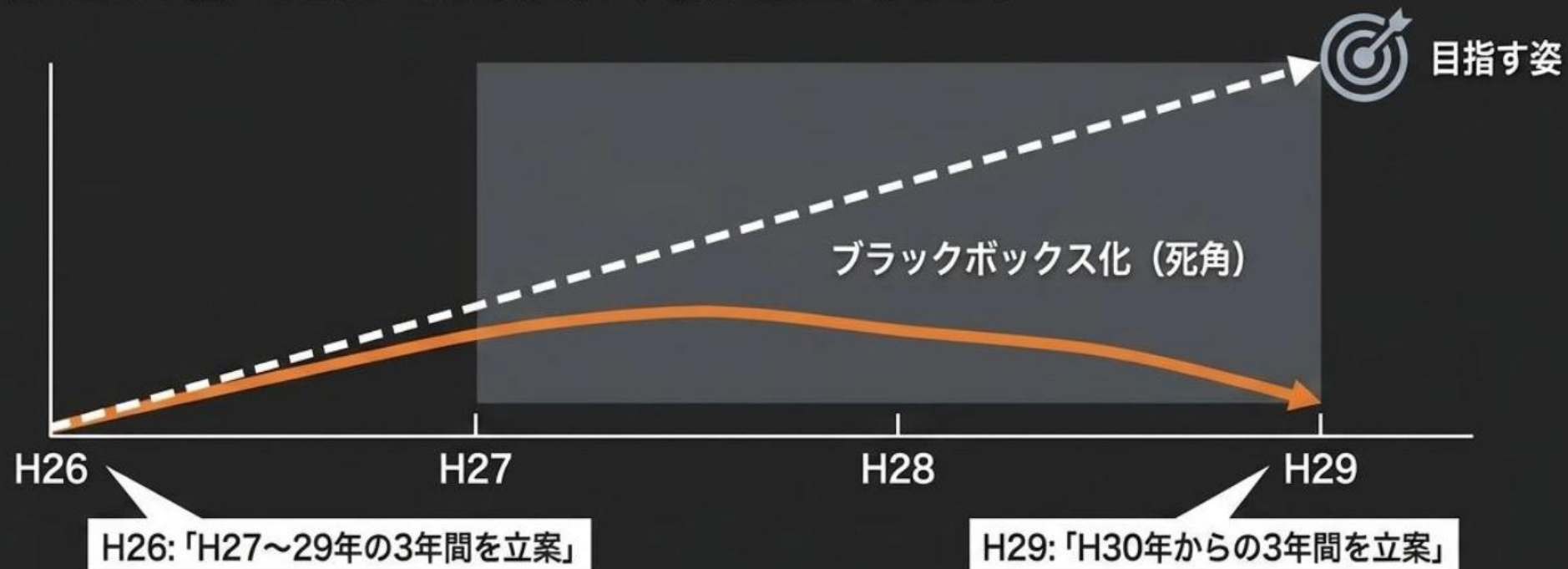
4半期ごとに、4地区合同で情報共有を行う場をしくみ化する。

目的

各地区の進捗、悩み、解決策をリアルタイムで共有し、孤立を防ぐ。

2) 中期ビジョン(案) [10/14]

従来型の固定化された3か年計画は、
実行と目標の間に深刻な乖離を生み出す



結果として「目指す姿」は掲示されるものの、中間での軌道修正がなく、
3年後にはその姿に行きつかない構造的な欠陥が存在する。

2) 中期ビジョン(案) [11/14]

目標未達を引き起こす3つの構造的なシステム・エラー

実行責任の曖昧さ

役割と責任が不明確。
誰が、いつまでに実行するのが
システムとして定義されていない。

リソースの分散

「3本柱」は掲げているものの、
日々の業務において重点志向になっ
ておらず、推進力が削がれている。

検証サイクルの不在

成果（ファクト）の振り返り
もないまま、漫然と3年が
経過してしまう。

結論：属人的な努力への依存から脱却し、
計画を確実に推進するための「新しい仕組み」への移行が急務である。

2) 中期ビジョン(案) [12/14]

確実な目標達成を約束する「改革の3本柱」

時間軸

ローリング方式の導入

固定された3年ブロックを廃止。
「1年ごと」に常に「3年先」を見据えた動的な計画策定ヘシフト。

戦略性

ファクトベースの機動的修正

方策の進捗状況に合わせたファクト確認を徹底。計画通り進めるか、進捗に合わせて変更をかけるか、臨機応変に変える仕組み化。

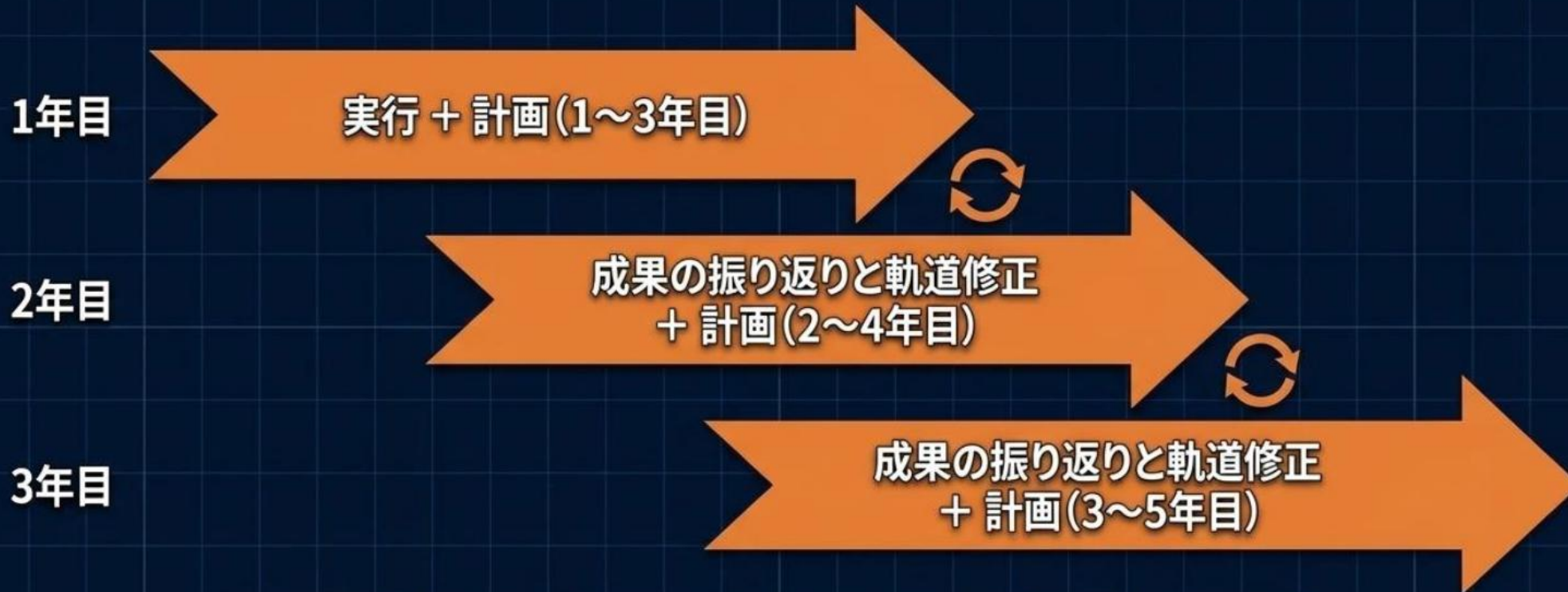
組織・人

個人の役割明文化とフォロー

毎年、支部の一人ひとりに役割と責任を付与。いつ、何をやるかを明文化し、フォローの仕組み化で進捗を完全管理。

2) 中期ビジョン(案) [13/14]

時間軸の改革：常に3年先を見据える「ローリング・サイクル」の全体像



3年に1度の「大掛かりな立案」から、毎年ファクトを確認し、柔軟に未来を書き換える「継続的アップデート」へ。

2) 中期ビジョン(案) [14/14]

パラダイムシフト:従来型モデルから動的ローリングモデルへの転換

評価項目	従来型 3か年計画	新方式 ローリング3か年計画
計画サイクル	3年に1度、3年分を固定立案	毎年更新 (常に3年先を見据える)
責任の所在	役割と責任が不明確	一人ひとりの「いつ・何をするか」を毎年明文化
進捗と検証	成果の振り返りがないまま3年経過	毎年のファクト確認とフォローの仕組み化
外部変化への適応	硬直的 (軌道修正が困難)	進捗に合わせて臨機応変に変更をかける
最終結果	3年後、目指す姿に行き着かない	軌道修正により、確実に目標軌道へ着地させる

3) 総合・交流大会（交流の場）[1/3]

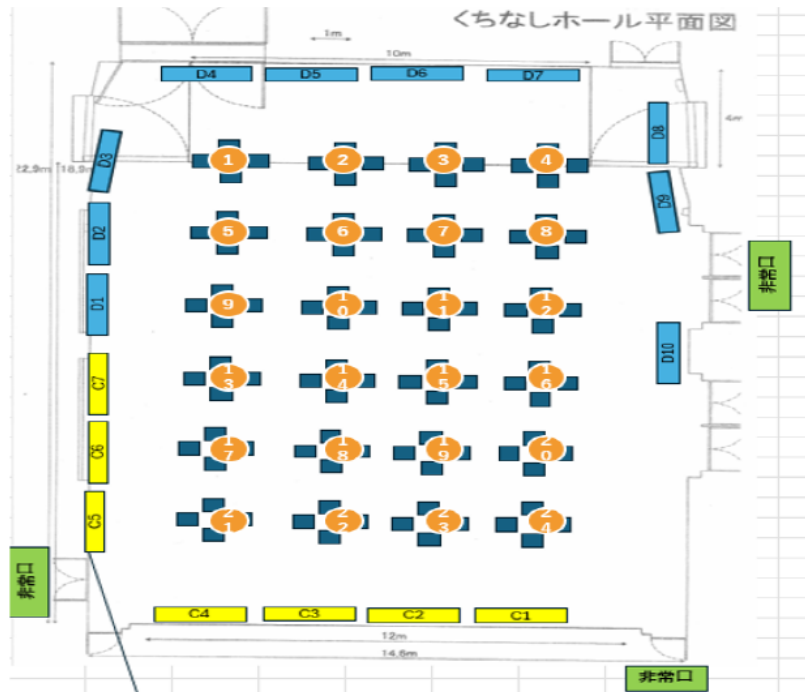
- ・従来の形式では関係者内の学びにとどまり、新規ファンの拡大に繋がっていなかった
⇒ 参加者同士の対話を重視したポスターセッション形式とし、単発イベントで終わらせず、次の行動変容に繋げることを目指す

<具体策>

#	目的	実施策
①	【新規ファン拡大】 QCサークル未導入の企業、導入初期の企業に参加いただく	未接触の企業・団体リストを作成し、地区の力も借りながらアプローチ
②	【やる気の喚起】 他社事例との対話・共感・気づきを通じて「自分たちにもできる」という実感と次の一歩を生む場とする	ポスターセッションと対話型交流（平場の交流）
③	【行動変容につなげる】 次の行動（研修・地区大会・幹事参加）を生む起点とする	開催後の行動変容や定着までフォロー

3) 総合・交流大会(交流の場) [2/3]

日時	2026年9月16日(水) 10:00~14:00
会場	愛三文化会館(愛知県大府市明成町1丁目330)
形式	ポスターセッション+対話型交流
対象	QC活動導入初期・未導入企業、改善活動に悩む企業・団体
規模	聴講者約80名/事例28件
基本姿勢	発表の優劣ではなく、学び合い・仲間づくり



3) 総合・交流大会(交流の場) [3/3]

Q. 本日の学びを今後どのように活かしたいですか？

と支部・地区のアクション

選択	判定区分	回答文	意味	参加者の状態	支部・地区のアクション
☐	A	すでに具体的な実践内容が決まっており、自社で展開できそう	ベスプラ候補	実践意欲が高く、自走できる状態	事例共有依頼、地区大会・発表候補登録、次回交流の場での紹介打診
☐	B	やってみたいことはあるが、他社事例紹介や相談など支援があれば進められそう	寄り添いあり	行動意欲はあるが、支援があれば進む状態	地区担当から連絡、訪問・オンライン相談、改善テーマの壁打ち、他社事例紹介
☐	C	興味はあるが、何から始めればよいかわからない	育成対象	関心はあるが、行動が未具体化の状態	事例資料・研修案内、次回行事案内、まず一步の考え方を情報提供
☐	D	現時点では自社で活用する予定はない	経過観察	現時点では活用予定がない状態	行事案内のみ、将来接点のための情報提供

＜新規・未接触の参加企業に対する 開催後の行動変容や定着までフォローの仕方＞
 ・大会後のアンケートで、4 カテゴリーに層別
 ⇒ 区分毎に、異なるアクションを個別に泥臭くやっていく

4) 経営者フォーラム[1/3]

- ・QCサークル活動の普及にはトップの理解と関与が不可欠

⇒ **新規・未接触の中小企業や医療・福祉分野の**
経営層へのアプローチを強化する

※昨年は19団体を訪問し、新規会員登録や大会参加に繋がるなど、一定の足がかりを築くことができた
今年も支部・地区・普及拡大メンバーが協業し、
新規・未接触の中小企業や医療・福祉分野の
取り組みに注力する
⇒ **新規・未接触24社申込み(8/14現在)**

日時：2026年 **11月 5日(木) 13:30~17:15**
会場：**D-Square内、スクエアプラザ** ([アクセス・施設概要](#) | [D-Square](#))
対象：・経営者・役員・経営企画責任者層 (<https://denso-dsquare.jp/facility>)
・QCサークル(小集団改善活動)をこれから導入したい方
・導入済みで、経営成果につなげたい方
参加費：**無料(申し込み:2026年10月2日(金)まで)**
(申し込みをされた方は、お名刺を持参ください。異業種間での交流を深めるべく名刺交換の場を設定しています。)

QCサークル東海支部 2026年度 経営者フォーラム

第一部 招待講演【実践事例から学ぶ】

小集団活動を通じて経営改善 ~中小企業事業者が主役の時代に~
中小企業における人材育成・組織力強化の視点から実践知を提示



きうち まさみつ

木内 正光 氏

玉川大学 経営工学部 国際経営学科
教授

飯塚病院におけるTQM推進 ~なぜ病院経営にQCサークルが必要なのか~
病院経営の実践事例を通じて、トップマネジメントと現場活動の
関係性を解説



ふくむら ふみお

福村 文雄 氏

株式会社麻生 飯塚病院
顧問

第二部 トークセッション

組織力向上・業務の効率化を実現するためには、**経営トップが「小集団改善活動」をどう位置づけ、どう関与するか**が極めて重要です。本トークセッションでは、医療・福祉分野および産学の第一人者をお招きし、各分野での実体験をもとに、**人が育ち、組織が変わり、経営成果につながる小集団改善活動の要諦**に迫ります。異なる分野だからこそ見えてくる共通原理を共有し、経営者自らの実践につなげていただく場とします。

組織力向上・業務の効率化にお悩みの経営者必見
経営成果につながる「小集団改善活動」の本質とは
なぜ今、経営トップの関与が成果を左右するのか
現場任せにしないQCサークル活用のか考え方
医療・福祉・製造業に共通する「人が動く組織」の条件

4) 経営者フォーラム[2/3]

2026年度 経営者フォーラム プログラム

主催者あいさつ

QCサークル活動(小集団改善活動)は、60年を超える長きに渡り続いてきた活動であります。この間には、オイルショック、バブル経済崩壊、コロナ禍、少子高齢化、グローバル競争の激化など職場を取り巻く環境は何度もそして大きく変化しましたが、その都度、先人は不断の努力でそれらを乗り越えて参りました。そして今日、その環境変化はより頻繁に、より大きくなることが想像されます。QCサークル東海支部ではこのような現状を鑑み、経営者の関心事であります、日本の国際競争力向上を目指し、「2026年度 経営者フォーラム」を開催いたします。

本フォーラムでは、講演講師、トークセッション登壇者共に一流の方をお招きしておりますので、趣旨にご賛同を賜り、積極的なご参画をいただきたく、お願いを申し上げます。

トークセッション登壇者

■ ファシリテーター:木内 正光 氏



佐々木 眞一 氏
(一財)日本科学技術連盟 理事長
トヨタ自動車株式会社 元副社長



糟谷 美佳 氏
日本福祉大学
企画政策課長 兼 ICT
推進室長



岩瀬 三紀 氏
トヨタ自動車
トヨタ記念病院 病院長



中村 典子 氏
聖隷福祉事業団
聖隷浜松病院 看護部次長
CQI室副室長

4) 経営者フォーラム[3/3]

プログラム		
13:00～13:30	受付・名刺交換	
13:30～13:40	開会挨拶・趣旨説明	日本製鉄株式会社／東海支部 支部長 桂 直之 氏
13:40～14:20	招待講演①	玉川大学 経営工学部 国際経営学科 教授 木内 正光 氏
14:25～15:25	招待講演②	株式会社麻生 飯塚病院 顧問 福村 文雄 氏
15:25～15:45	休憩・名刺交換	
15:45～16:45	トークセッション	【パネラー】 一般財団法人 日本科学技術連盟 理事長 佐々木 眞一 氏 トヨタ自動車 トヨタ記念病院 病院長 岩瀬 三紀 氏 聖隷福祉事業団 聖隷浜松病院 看護部次長 中村 典子 氏 日本福祉大学 企画政策課長 兼 ICT推進室長 糟谷 美佳 氏 【ファシリテーター】 玉川大学 経営工学部 国際経営学科 教授 木内 正光 氏
16:45～17:10	全体質疑・意見交換	
17:10～17:15	閉会挨拶	トヨタ自動車株式会社／東海支部 副支部長 伊藤 公一 氏
17:30～19:00	異業種交流会	ご希望者で会食歓談の場 * 東海支部関係者のみ有料

5) 総合・交流大会(発表の場) [1/2]

- ・発表の機会を継続することで、サークル活動での褒められる場を提供
(各地区から推薦された各種の事例に対し支部長賞を授与)

⇒ 従来のJHS改善事例、推進者事例、製造改善事例に加え、

QC手法に拘らない事例発表枠を新設

(ステップアップチャレンジ事例:

QCサークルファン拡大向け発表の場とする)

※・発表事例数を30→33へ増加

・新規聴講者の発掘により、

会場聴講者を480→540も目指す

第6739回

QCサークル東海支部

総合・交流大会

～みんなで、楽しみ、喜び、成長して、全てのステークホルダーに感動を！～

事例発表会を通じて、小集団活動を浸透・拡大し職場の活力向上

主催:QCサークル東海支部 後援:一般財団法人日本科学技術連盟QCサークル本部

テーマ 各地区の仲間のニーズに応えるQCサークル活動(小集団改善活動)を追求していこう!

開催日 2026/9/17(木)
8:45～受付 9:15開会 16:30終了
※オンデマンド配信:9/18(金)～10/19(月)

募集人員 ◆会場聴講:540名
(定員達成次第締切)

◆オンデマンド配信:人数制限なし

参加費 ◆会場聴講:5,500円/人
(昼食、オンデマンド視聴の費用含む)

◆オンデマンド視聴のみ:5,500円/人

特別講演(会場聴講者の方のみ)

トヨタ自動車株式会社

主幹(看護師)

黒田 直美 様

テーマ:楽しくやれるQC活動
～チームワーク作りの経験談～

会場案内

愛三文化会館

愛知県大府市明成町一丁目330番地
(JR共和駅 西口より徒歩10分)

HP: <https://www.obu-kinrou.com>

- 駐車場に限りがございます。
公共交通機関のご利用に
ご協力をお願い致します。

会場HP



4) 総合・交流大会(発表の場) [2/2]

1) 発表件数目標 (3会場で33事例)

・前回発表件数 (参考)	愛知地区	静岡地区	三重地区	岐阜地区	計	
①JHS改善事例	2	2	1	2	7	←JHS比率: 23%
②推進者事例	3	0	0	0	3	
③製造改善事例	7	4	5	4	20	
計	12	6	6	6	30	
今大会目標件数 (案)	14	6	7	6	33	←地区間での調整可
確定件数						
①JHS改善事例	2	2	1	2	7	
②推進者事例	0	0	0	0	0	
③製造改善事例	9	4	4	5	22	
④ステップアップチャレンジ事例	2	0	1	1	4	←内、JHS:4件
計	13	6	6	8	33	←JHS比率: 33%

●第2会場は、QCサークルファン拡大向け発表の場とする (発表件数見合いで使用時間判断)

※第2会場は、JHS事例発表と小集団改善活動発表であれば、QC手法に拘らない事例発表で使用。

(支部長賞選考対象→支部長賞1件、優秀賞3件を授与とする)

●発表事例枠名称は、発表者側目線で、ステップアップチャレンジ事例発表事例枠とする

※鈴鹿高専 (三重)、国際たくみアカデミー (岐阜)、日本製鉄㈱、宝石油機工㈱ (愛知) の4事例

●東海理化、大同特殊鋼㈱は次年度参加予定で年間計画策定

5) チャンピオン大会

(1)愛知製鋼さんにご尽力いただきます

行事担当：愛知製鋼株式会社(愛知地区)
担当副世話人：豊田自動織機 木寺紀世(東海支部)

スローガン	東海地区の仲間のニーズに応えるQCサークル活動（小集団改善活動）を追求していこう！		
大会のねらい	製造およびJHS改善事例の優秀サークルの選定		
開催日時	2027年2月4日(木) 9:45～16:30 受付開始9:15		
開催場所	愛三文化会館		
参加費	会場 5,500円/人、オンデマンド 5,500円/人		
定員	有料)会場500名+オンデマンド100名、無償)招待・役員・幹事75名		
発表件数	製造 12件、JHS 10件、招待 2件		
プログラム	時間	所要	備考
事例発表 16分/件 (発表15分 準備1分)	9:15 ～ 9:45	30分	受付
	-----<第1会場にて運営>-----		
	9:45 ～ 9:50	5分	開会挨拶（支部長）
	9:50 ～ 9:55	5分	会場運営案内
	9:55 ～ 10:05	10分	休憩（会場移動）
	-----<第1 製造>-----<第2 JHS>-----		
	10:05 ～ 10:10	5分	オリエンテーション
	10:10 ～ 11:00	50分	事例発表3件
	11:00 ～ 11:15	15分	休憩
	11:15 ～ 12:05	50分	事例発表3件
	12:05 ～ 13:05	60分	昼食・休憩
	13:05 ～ 13:55	50分	事例発表3件
	13:55 ～ 14:10	15分	休憩
	14:10 ～ 15:00	50分	事例発表3件
	15:00 ～ 15:15	15分	休憩
	-----<第1会場にて運営>-----		
	15:15 ～ 15:55	40分	招待事例発表2件
	15:55 ～ 16:25	30分	審査結果発表・表彰式
	16:25 ～ 16:30	5分	閉会挨拶（副支部長）
	16:30 ～ 17:00	30分	片付け・休憩・移動
	-----<第2会場(くちなしホール)にて運営>-----		
	17:00 ～ 17:35	35分	贈賞式（石川馨賞、優良企業・事業所表彰）
	17:35 ～ 19:00	85分	懇談会

1) 発表サークル
2025年度実績に対し

	愛知	静岡	三重	岐阜	計	支部規定
製造	6	2	2	2	12	12件以下
JHS	4⇒3	2⇒3	2	2	10	12件以下

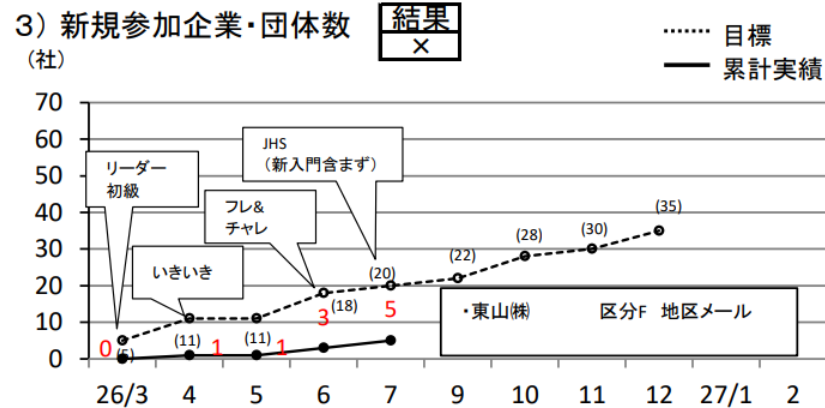
- ・JHS 愛知－1件・・・ 選考大会（かきつばた大会）を26年度より廃止のため
- ・JHS 静岡＋1件・・・ 木原幹事長の呼びかけにより、聖隷浜松病院様が出場意向

前回大会のアンケートへの対応
＜オンデマンド配信のしくみ＞
・オンデマンドに招待事例追加はしない
・会場聴講：6,000円/人(+500円)
・オンデマンド：5,000円/人(-500円)
⇒ 全地区、支部合意(6/29)
2027年度からの3つの支部大会に適用する

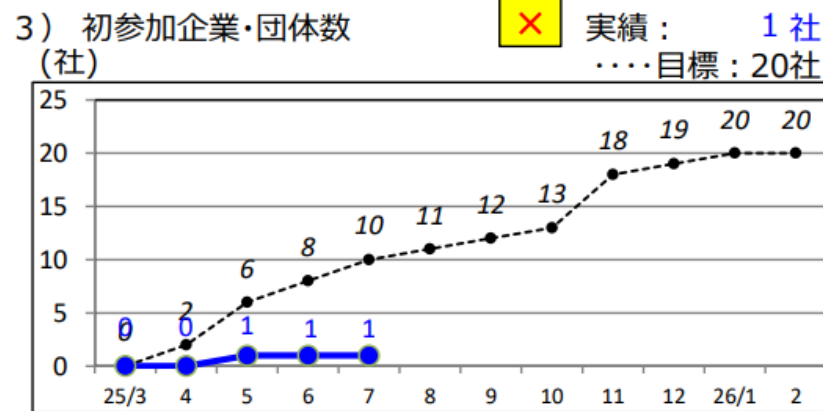
※くちなしホールは
会場準備

1) 初参加企業・団体数

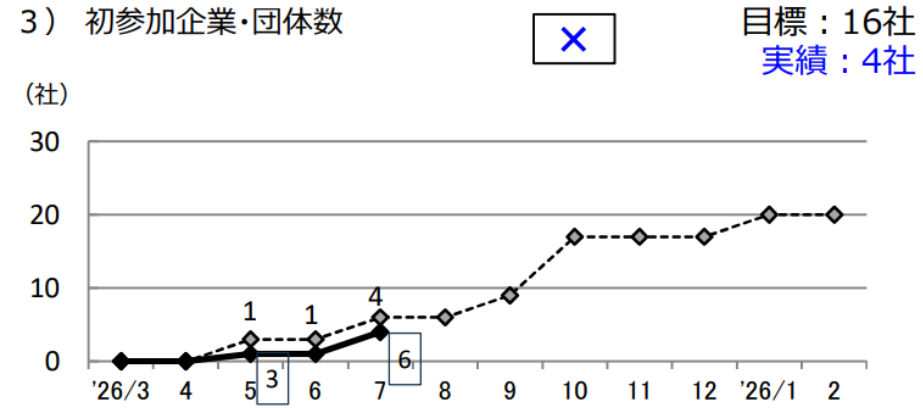
<愛知>



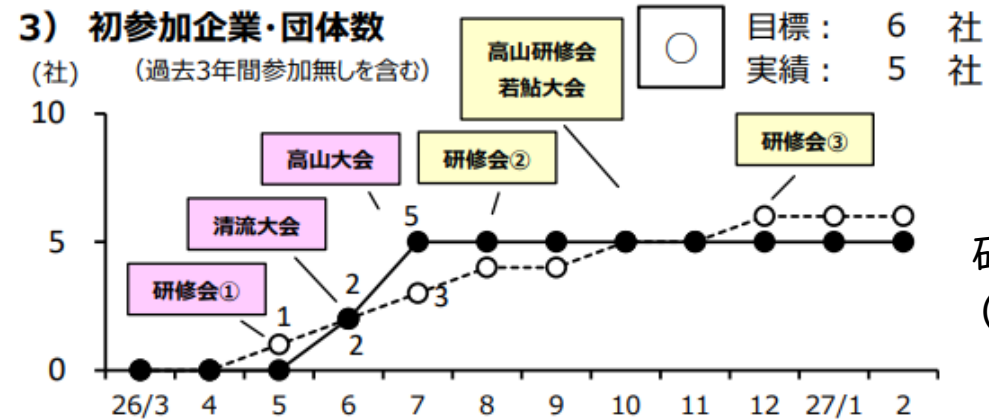
<三重>



<静岡>



<岐阜>



研修会②は定員割れ
(幹事研修の場とする)

愛知地区を含む3地区で、「初参加企業・団体数」が、目標未達の状況

⇒ 地区・支部一体となった普及拡大活動を推進中

「あなたの会社はもっと良いことができますよ」うまくいった事例を交えながら可能性を示すアプローチ等

以上